



AMS MathSciNet インタビュー

数学研究の必須データベースである MathSciNet について、お話を伺いました。

金沢大学 理工研究域 数物科学系
大塚 浩史 教授

文献引用情報により、研究の発展を追跡可能

一般的なデータベースの機能ではあるが、Citations により、その論文のその後の研究の発展を追うための機能は日常的に使用している。引用された文献は論文に記載されるが、その論文を引用するその後の論文を探すことは、このような機能を用いる以外は、くじを引くようなものだと思う。実際かつては、ある程度の範囲の雑誌の最新号のタイトルを定期的に確認していたが、今は、よほど時間があるとき以外なくなった。

また、分野を問わず文献調査は研究活動の基本である。MathSciNet は、数学という学問にとって最も充実した文献調査の入り口であり、現在の私の研究活動には必要不可欠である。

古い文献の Review も充実

MathSciNet では、Review そのものが個性的なものもあり、論文の価値を知る助けになることが多い。特に古い文献の Review は、充実している場合が多いと感じる。

珍しい例だとは思いますが、以前、手に入りにくい下記の文献が必要となったとき、MathSciNet の Review にほぼ証明が記載されていて、概ね内容を知ることができたのには驚くと共に助けられた。

Blair, Charles E.

The Baire category theorem implies the principle of dependent choices.

Bull. Acad. Polon. Sci. Sér. Sci. Math. Astronom. Phys. 25 (1977), no. 10, 933–934.

繰り返しになるが、特に古い文献の Review に顕著であるが、その内容が研究を進める上で参考になる場合がしばしばある。

今後の MathSciNet に期待する点

数学のデータベースの中では review 内容が最も充実していると思うが、zbMATH のように、arXiv との連携※があると、現代的にはより便利だろうと思う。また、リモートアクセスのペアリング機能※については、より安定して使用できることを期待する。

とはいえ、巨大な冊子体の Mathematical Reviews や CD-ROM で検索していた時代も経ている身としては、**現在の online で使える MathSciNet** は、基本となる **review 付きのデータベース** や **様々な検索機能だけでなく、Collaboration Distance**※や **Mathematics Genealogy Project**※との連携なども備え、只々有難く楽しく使わせていただいている。引き続きこの取り組みを続けて欲しい。

※2026年3月現在、MathSciNet では arXiv との連携ができませんが、今後実装を目指し AMS 側で準備中です。

※ペアリングは、ご所属機関外からも MathSciNet にアクセスできる機能です。下記リンクに詳細がございます。
https://kw.maruzen.co.jp/ln/ec/ec_doc/ams_pairing_guide.pdf

※Collaboration Distance: 共同研究間隔の検索機能。2人の研究者（著者）の共同研究（共著）による係わり合いの間隔を数値で導き出すことができます。いわゆる「エルデシュ数(Erdős number)」の拡張概念となります。

※Mathematics Genealogy Project: 数学分野の系図を知るためのデータです。

MathSciNet のご利用にあたってのお問合せは、
最寄りの丸善雄松堂 営業支店または
下記までご連絡をお願いいたします。
e-support@maruzen.co.jp

新規導入に向けたトライアルについてもご相談ください。

(AMS, USA / 日本国内総代理店 丸善雄松堂)